

## 平成 28 年度 長野市連携中枢都市圏ビジョン懇談会 要旨

### 【開催日時等】

- 日 時：平成 28 年 11 月 10 日（木）14:00～15:52
- 場 所：長野市役所第一庁舎 5 階 庁議室
- 出席者：別紙名簿のとおり

### 【懇談会概要】

- 1 開会（増田企画政策部長）
- 2 あいさつ（黒田副市長）
- 3 懇談（黒田座長）
  - (1) 連携事業の進捗状況等について
  - (2) 事例紹介
    - ① 「ソルガムが拓く地域自立型循環モデルの開発」  
信州大学工学部 天野 良彦 教授
    - ② 「ICTを活用した最先端農業への挑戦」  
飯綱町企画課地域振興係 原田 大 主幹
  - (3) 意見交換
- 4 閉会

### ■ あいさつ（黒田副市長）

本日はお忙しい中、参集いただき誠にありがとうございます。

既にご存じの通り、昨年度末に長野市と須坂市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、信濃町、小川村及び飯綱町のそれぞれが、1対1という関係で連携協約を締結いたしました。そして、圏域の将来像や具体的な取組を記載した、連携中枢都市圏ビジョン、通称、長野地域スクラムビジョンを策定・公表し、長野地域に連携中枢都市圏を新たに形成いたしました。

これに当たりましては、委員の皆様には、多大なるご尽力をいただきましたことに、この場をお借りいたしまして、改めて御礼申し上げます。

おかげさまで、新しい年度を迎えて、連携中枢都市圏ビジョンに掲げました 46 の連携事業がスタートいたしまして、例えば、学生を募集するための企業の案内であります「おしごとながの」による地域への就職支援、あるいは、移住・定住促進の事業などが進んでいるところでございます。この後、46 の連携事業につきましては、事務局から進捗状況等につきまして説明をさせていただきます。

いずれにいたしましても、連携事業はまだ始まったばかりでございます。試行錯誤しながら取り組んでいるところでございますので、是非、皆様方の新たなご意見・ご提案を賜りながら、一層の充実に向けて進めて参りたいと考えているところでございます。

松本市もいよいよ中核市に向けて動き出すということでございます。県の構想で言えば、東北信は長野市を、中南信は松本市を中心にとの構想もあるようですが、まずは長野地域からということでスタートさせていただきました。松本市が中核市の仲間入りすることを期待しております。

本日は産学官金民の方々にお集まりいただいております。私が県にいた頃は産学官でし

たが、そこへ金が入り民が入り、これこそ地域活性化の主体であると考えております。たくさんの方々が連携して、一つになって地域の活性化を目指していくことが肝要であると考えています。

先ほどご案内がありました通り、本日は、信州大学工学部の天野教授、飯綱町企画課地域振興係の原田主幹には、大変お忙しい中、わざわざお越しいただきまして、厚く御礼を申し上げます。

まとめませんが、これから我々、一生懸命取り組んで参りますので、一層のご協力をお願い申し上げます。簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願いいたします。

## ■連携事業の進捗状況等について

事務局（倉島企画課長）より、資料No.3、4を説明

### 黒田座長

全体的に、職員の研修等は行政ベースで進めることができるため、すぐに取り組めるということでやり易かったが、病児病後児保育など住民の方が直接利用するようなものは、これからという気がしている。もう少し裾野を広げていくことが今後の課題だと考えている。

## ■事例紹介

- ① 「ソルガムが拓く地域自立型循環モデルの開発」  
信州大学工学部 天野良彦 教授

《質疑応答》

### 山口 鬼無里地区住民自治協議会相談役

ソルガムの栽培の方法、成果や販路等についていろいろとお話があった。ソルガムを生産する場合、例えば生産組合やNPOなどが行うとしても、生産性が重要だと思う。一つの大きな事業とするには、生産性がどうなのかという問題がある。10 アール当たりの単収はどれくらいなのか、経費を引いた利益がどれくらいなのか、今の段階ではどうなのか伺いたい。

### 天野教授

試算はしている。実については約400キログラム取れる。私どもが目指しているのは1キログラム当たり300円、それで売れないかと考えている。きのこの培地は10アール当たり1.5トン取れる。今、海外から輸入しているものが、1キログラム当たり35円であり、上手くいけば数万円にはなるので、お米には少しかなわないかもしれないが、それに匹敵するだけの単収は挙げられるだろうと考えている。それについては、やはり販路を確保しなければならない。

経費については、循環型で回すこととしているので、堆肥はかなり必要になるが、き

ちんと回せば、その部分の経費はそれほどかからないと考えている。

#### **桜井 小布施文化観光協会会長**

実際に栽培しようとした時に、マニュアルはあるが、実務の面で指導していただける組織はあるのか、実を活用する場合、農薬の登録がないとのことだが、農薬登録の見通しはあるのか伺いたい。

#### **天野教授**

普及体制については、現在、栽培講習会等を開催しているが、長野農業改良普及センターの方にも参加いただいているので、組織が上手くできないかと考えている。投薬農薬については、私どもは逆に考えており、投薬農薬が無いので農薬は使えないし、肥料も有機で入れることを考えているので、完全有機で無農薬を目指している。

#### **黒田座長**

当面は信州大学で指導いただけるのか。

#### **天野教授**

私も専門ではないが、多少は分かる。

#### **春原 須坂商工会議所専務理事**

実と茎葉の需要はどうなのか。栽培農家を良く知っているが、除草には大変苦慮されている。それについて省力化はどうなのか。また、この農家は、茎葉の部分は畑に残し、実だけを収穫しているが、茎葉の刈り取り、残渣の処理に大変手間がかかり重労働となっている。高齢者の方には非常に厳しい労働環境になるのではないか。

#### **天野教授**

収穫は私どももいろいろと試しているが、まだまだ課題は大きい。今年も実は(長野市)七二会地区において、関東甲信クボタさんをお願いして機械で収穫した。その時に茎葉の部分も一緒に取ることができるのではないかと考えている。しかしながら、委託料がかかってくるので収入に影響が出る。除草については、本当に荒らしてしまった土地に植えた場合、1～2年は結構大変だと思う。私どもが栽培している七二会地区では、6月1日に植えて以降、6月末に1回除草しただけであり、それ以上は必要なかった。

#### **黒田座長**

茎葉は手を焼く部分ではあるが、それほど重いものではないので、高齢者でもなんとかやっている。高齢者が稼ぐ場であるというのも一つの利点なので、引き続きご指導いただきたい。

#### **② 「ICTを活用した最先端農業への挑戦」**

飯綱町企画課地域振興係 原田大 主幹

《質疑なし》

## ■意見交換

### 北村 長野商工会議所会頭

産業フェア in 善光寺平は今年で11回目を迎え、10月28、29日に開催した。法人会が核となっており、法人会のエリアが長野税務署管内の産業界であるため、善光寺平という名前が付いている。新幹線の延伸に伴い、新幹線の沿線地域の方にも参加いただき、また、それぞれの地域で開催する際は、長野市、須坂市、千曲市、その他の地域からも参加できるように、産業交流、人材交流を考えている。坂城町の町長や商工会、あるいはそれぞれの地域の商工会等にも働きかけをしている。今年は前年に勝る出展数ではあったが、まだまだ規模を大きくしたいと考えている。長野地域の産業は工業製品、機械や部品製造の他、一番は食品加工が多いので、そういう方々にも積極的に産業フェアへ出展いただくよう、連携中枢都市圏ビジョン懇談会でもしっかりと取り組んでいただきたい。

### 黒田座長

産業界もますます底辺を拓けており、エリアが善光寺平より広くなるかもしれないが、人口減少社会に対する一つの行方が見えてくると思っている。この地域は諏訪や伊那と違い、部品ではなく食品の層が厚い。景気がいい時に一気に上昇はしないものの、景気が悪くてもなかなか落ちないという腰の強い面がある。小布施町や高山村等食品関係の強い所がたくさんあるので、是非ご参加いただきたい。

### 春原 須坂商工会議所専務理事

連携事業に関して初年度にこれだけの実績を挙げていただいたことに対し、担当された市町村の方々に感謝申し上げたい。実績は資料3に掲載されており、初年度であるため暗中模索といった面もあるかと思うが、成果としてはどうなのか。行政レベルでの連携は比較的進んでいるが、民間との連携はあまり進んでいないと思う。これに関する課題は何か。また、重荷になっている、あるいは、長野市にウエイトがかかってしまっている部分があるとすれば、それを軽減しないと連携が進まないと思う。

### 事務局

成果については、指標に関する平成28年度の数字がまとまるのが来年度であるため、今後報告させていただく。民間との連携については、我々も地域の活性化には重要と考えているため、本日皆様方からいろいろなご意見をお聴きし、参考とさせていただきたい。重荷となっている部分があるのではないかとのご意見については、連携事業が始まったばかりで、それぞれの市町村と一生懸命に進めている段階である。

本日、天野教授からソルガムに関するご紹介をいただき、その中でソルガムの出口の部分が課題とされていたと思う。この懇談会が、もちろん私も長野市が行政として連携の中心にはなるが、皆様方民間同士の連携のプラットフォームになってほしいとの思いが強くあり、例えば、本日を機会にソルガムに関する出口が広がっていく、そういったことを期待している。

### 黒田座長

成果指標は統計数字等を使用しているので、今後、まとまりましたらご報告させてい

ただ、重荷となっていないかという意見については、成果が出てくれば重荷も喜びに変わる、そんな意気込みで頑張っているの、引き続きご支援をお願いしたい。

#### **栗原 千曲商工会議所事務局長**

資料3の4ページに、教育・文化・スポーツに関する取組がある。千曲市にも信州ブレイブウォリアーズというバスケットボールのプロチームがあり、長野市にもAC長野パルセイロというプロサッカーチームがある。非常にスポーツが盛んになっているので、そういったものを活用するとともに、少子・高齢化という中で、若者、子育て世代が希望を持てるよう、スポーツを通じたまちづくりを行っていったらいいと思う。ブレイブウォリアーズの関係では、ガイドフラッグなど、地元の芸術家越ちひろさんに協力いただいた。今後は、都市間連携という形になり、それぞれの活動について掘り下げを持っていければいいと考えている。

#### **黒田座長**

各チームも地域貢献を掲げており、長野広域連合でもそのような活動をしているので、是非ご活用いただきたい。

#### **豊田 ながの農業協同組合代表理事組合長**

ソルガムの話に興味深く聞かせていただいた。私ども農協グループとしても、遊休荒地や人口減少は大きな問題と捉えており、長野市には大変協力いただいていると思っている。ソルガムについては、出口の問題がある程度整理できれば、私どもも積極的に取り組んで参りたい、栽培技術についても教えていただければ普及させて参りたいと考えている。

#### **黒田座長**

栽培等には大きな企業も関わっている。今後、特産の一つのサイクルとなることを期待しているので、ご協力をお願いしたい。

#### **神農 グリーン長野農業協同組合代表理事組合長**

本日は、農業関係の事例を紹介いただき感謝申し上げます。大変勉強になったと思っています。ご承知のように、農協は長野市では2つであるが、ながの農協が北信のほとんどの農協と合併され、連携の面から言えば、農業関係は非常に心強い体制になったと思っています。ほとんどの農業関係は網羅できると考えている。農協間の連携は既に出来上がっているが、本日のような貴重な機会はまだまだ少ないので、それぞれの立場で、農業を支えていただくようお願いしたい。

#### **滝沢 ながの観光コンベンションビューロー専務理事**

観光については、資料3の2ページに、長野市が中心となって進めていることが書かれている。私どもでは、長野市観光情報センターを利用いただきたいと申し上げているが、まだ実績はない。ご利用いただく準備はできている。特にインバウンドで各市町村も相当ご苦労されていると思う。現地や東京方面に行ってイベント等を開催すると大変お金がかかる。この冬場、12、1、2月に、毎月5千名程度の外国人観光客に利用いただいているので、是非そこで情報を発信いただきたい。外国人の方に認識いただくまでには時間がかかる。幸いなことに、スノーモンキーが非常にフィーバーしており、長野

駅を経由して行かれる方がほとんどなので、上手く利用いただきたい。また、人口減少、高齢化により、これから先は日本人の旅行が減少していく。高齢化により旅行回数が減っていく。60代から旅行回数の減少が始まる。それをインバウンドでカバーしなければならないが、インバウンドではカバーできる数字ではないと判断している。外国人の旅行者は全ての統計数値において1割程度で、非常に割合が少ない。インバウンドの恩恵を受けるのは、東京、大阪が中心になるので、地方都市は思っているよりインバウンドは伸びないと思われるが、長野市の場合は確実に伸びている。20%程度増加になっているので、連携中枢都市圏の事業で上手く活用いただきたい。費用はかからない。プロモーション映像などがあれば、情報センターの中で上映することも可能なので、是非ご活用いただきたい。

#### 黒田座長

ただいまありがとうございますお話をいただいたので、是非それぞれの立場でご活用いただきたい。

#### 中村 信州大学理事・副学長

長野市を中心とした9市町村の皆様には大変お世話になっており、この場を借りて厚く御礼申し上げます。信州大学からの提案はたくさんあるが、いくつか絞ってご案内したい。まず、長野市、北信地域中心には工学部、教育学部がある。工学部の中には、UFO長野、サステック（信州科学技術総合振興センター）、国際科学イノベーションセンター（アクア・イノベーション拠点）等のインキュベーション施設があり、大学のシーズと地域のニーズをマッチングしている。本日、商工会議所の方々もいらっしゃるので、是非インキュベーション施設を使用していただきたい。

信州大学は、県内唯一の国立大学であり、学生は大学院生を含めて約11,000人、教員は約1,000人、職員は約2,000人の規模であり、いろいろな人材がいる。ただ、長野県は非常に広く、信州大学は5キャンパスある。ソルガムや休耕地の有効利用等を扱っているのは伊那地域にある農学部になる。とは言え同じ大学なので、それをつなぐ仕組みとして、産学官・社会連携推進機構を今年4月に新たに作った。そこに情報を集約して、いろいろな所との橋渡しをする仕組みを作った。

信州大学では、今年で6年目になるが、銀行を中心に連携コーディネータ制度を作り、研修を経て、コーディネータを委嘱している。積算で1,100人になる。それに併せ、自治体にも連携コーディネータを委嘱しようということで、11月18日に自治体対象の地域コーディネータの研修会の開催を予定している。現在、20市町村から50人の応募がある。是非、全県に信州大学に係る連携コーディネータを拡げ、そこに情報を提供し、信州大学が持つ知財を有効に活用していただきたい。例えば農業関係で言えば、農業気象の専門家もいる。植物病理専門の若い先生も2人雇用した。りんごやいちごの新品種の開発もしている。

更に3年前からではあるが、国の方針でCOC（センターオブコミュニティ）というプログラムがあり、昨年からはCOC+（プラス）ということで、卒業生を地域に残す、信州大学は現在40%を切っているが、できるだけ50%に近づけ、卒業生を地元に残すべく取り組んでいるので、今後ともご指導ご鞭撻をお願いしたい。

#### 黒田座長

貴重な情報をいただき感謝申し上げます。COC+、卒業生を地元に残す取組は大変あ

りがたい。今後も引き続きご支援をお願いしたい。

#### **平林 八十二銀行法人部公務担当部長**

先ほど飯綱町の話があったが、私ども、地域資源活用、六次産業化、ブランド化、輸出を含めた販路支援などに取り組んでいる。その中では、融資だけでなくファンドなどの金融機能も工夫しながら取り組んでいる。先ほどの事例紹介は飯綱町と高山村の連携事業であり、私ども、各地のそのような事業のお手伝いをしている。単一の市町村だけで行う事業が多い中、広域で取り組んだ方がより効果があるというような事業も相当ある。そのような場合、私どもがコーディネータ役として他市町村にお声掛けをさせていただく場合もある。連携中枢都市圏ということも含めて、広域での取組が更に広がっていけばいいと思う。

ソルガムについても、お金の面だけではなく、事業化、商品化、販売について、私どもの力だけではなく外部の力を借りることを含めて、お役に立てる所があるのではないかと思ったので、今後関わらせていただきたいと思う。

長野地域は製造業だけでなく、いろいろ特色ある産業が幅広く分布しているが、逆に言うと、特色があまりないという面もある。前回、ICT産業やいろいろな業種が関わるIoTを旗印に取り組んだらどうかとご提案申し上げた。その後、今年になって長野市に動いていただき、長野市ICT産業誘致・起業プロジェクトが立ち上がり、そのメンバーとして参加している。その中で、ICTベンチャーの誘致や育成のプログラム、信州大学が主導されている小学生プログラミング大会などに取り組んでおり、今後は、ビジネスマッチングイベント等を企画している。課題としては、ICT産業自体スピードが速いので、プロジェクトのスピードも上げること。また、長野市だけでなく長野地域全体に取組を拡げていくことが良いのではないかと思う。産業育成だけでなく、創業・起業の促進、移住・定住の促進といった大きな意味もあると思う。サテライトオフィスや空き家を活用したテレワークなどを考慮すると、長野地域全体が一緒になって取り組んでいけばいいと思っている。

銀行でできることは限られているが、新しくできる県立大学に期待している。若者を地元で留める、県外に流出させない、あるいは、一度離れても県立大学が拠点となることにより社会人も含めて人が戻ってくるということで、いろいろ支援を考えたいと思っている。県立大学は起業家養成のプログラムも予定しているようなので、お金の面を含めて、県内企業の経営者や起業経験者の講座作り、学生のうちに起業したい方へのビジネスプラン作成など、事業になるまでをトータルに支援したい。また、2年目の海外留学が必須のようであり、県から、ローンや奨学金などの検討も依頼されているので、現在検討しているところである。

資料3の3ページにまちづくり事業とあるが、行政、地域全体として、まちづくりだけではなく新県立大学をみんなで応援するということが示せばよいと思う。

#### **和田 連合長野長野地域協議会議長**

資料4の求人倍率について触れさせていただきたい。平成28年度の実績が1.44倍と非常に高い数字だと皆さん思われると感じているが、実はこの大半が非正規雇用であり、できれば、正規の部分を伸ばしていただきたく、企業誘致、ベンチャー企業の誘致等をしっかり進めていただければありがたい。やはり安定した生活の実現は正規雇用であると我々は考えているので、是非お考えいただきたい。

## 黒田座長

連携事業の大きな柱の一つが圏域全体の経済成長のけん引であるので、お互いに頑張っ  
て参りたいと思う。

## 山口 鬼無里地区住民自治協議会相談役

鬼無里地区では、長野市のきらめき事業の一環として、今年からえごまを栽培している。  
耕作放棄地の解消や景観の改善、地域住民の交流を深めることなどを目的に進めて  
いる。収穫も済み、これから油を搾って販売していく予定である。

耕作放棄地を抱えている市町村は多いと思う。それぞれの市町村がどのように解決を  
図っているのか、どのような作物を栽培しているのか、それによる実績はどうか等  
についてお互いに情報交換する中で、耕作放棄地が減少していけばいいと思う。

## 伝田 須坂看護専門学校校長

本日は高齢者が活躍できる場、ソルガムの話など興味深く聞かせていただいた。うち  
の学校は 20 歳前後の看護学生ということで、ほとんどの学生が地域に残る。少子・高  
齢化についてどのように考えているか学生と話す機会がある中で、少子化については、  
先ほど、非正規雇用という話もあったが、そのような状況では子供を安心して産めない  
と学生からも聞いている。働く場所と住む場所が違う場合があるので、例えば保育園等  
の支援体制について、会社の中に保育園があるとか、会社のそばの保育園に預けられる  
とか、地域をまたいだ支援体制があると安心との話もあった。

高齢者については、高齢者自身の健康問題もあるが、いろいろな活躍の仕方があると  
思う。人間は誰でもいつかは死ぬということで、大分年を取った中での積極的な医療を  
どう考えるのか話すこともあった。ご本人の気持ち、家族の気持ちが第一であるが、最  
近終活ということが言われている中で、自分がどのように死んでいきたいのか、90 歳  
になっても積極的に治療を受けたいのか、少しずつ枯れていくように死にたいのか考  
えることも必要ではないかという意見も出た。私自身も学生と一緒に考えている。本日、  
皆様の活動の話をお聞かせいただく中で勉強させていただいた。感謝申し上げます。

## 黒田座長

病児病後児保育施設については、特に町村では、対象児がそれほどいないので、公立  
では作れないということもあった。最近まで長野市に一か所しかなかったが、長野市に  
二か所、須坂市に一か所、千曲市に一か所と、連携事業を通じてだんだん充実していく  
と思っている。

## 斉藤 千曲市次世代支援部地域活力創造課長

長野市に常々音頭をとっていただき、移住相談会、移住セミナーなど、東京、名古屋  
等へ私どもも一緒に行っているところである。移住相談者は、どこの市町村の窓口に来  
られた方も、自然が豊かでいいですねとおっしゃり、最後は勤める場所はあるかと聞か  
れるのが実態であった。それに対しては長野市が広域化した「おしごとながの」を紹  
介するなど、長い年月はかかるかもしれないが、一つ一つやっていく。市町村の職員も頑  
張っている。住民の代表である議員からの要望やご指摘にも応えながら取り組んでいる。  
民間との連携については、今回特に地方創生が意識をしたところであるので、長野市と  
一緒に取り組んでいきたい。行政の立場で一言ご意見申し上げた。



### 黒田座長

今後ともよろしく願いたい。

### 平林 坂城町子育て支援センター所長

病児病後児保育がスタートしており、今後更に広がっていくことを期待している。母親は働きたいが子供を預ける場所がない、隣の市町村に預けたいがそこで働いていないと預けられないなど、非常に悩んでいる声が聞こえてくる。子供を預かる場所の充実、地域でお年寄りまで活躍できる産業、働く場所の保障など、そういうものがあると若い人たちの移住促進にもつながり、地域が活性化すると強く感じている。併せて、市町村を超えた取組が、将来を担う子供たち、今の小学生、中学生、高校生、その子供たちを巻き込んだ取組につながっていくと、更なる地域の活性化、子供たちの地域離れの解消にもつながると思っている。

### 黒田座長

ご専門の立場で何かいいご提案があればまた教えていただきたい。

### 桜井 小布施文化観光協会会長

最近、小布施町は新規就農の若者が転入してくるようになった。彼らは割とアパートに住んでいる。農機具等は共同で倉庫を借りて置いている。家がほしい、空き家と倉庫があれば借りたいという話を良く聞く。ただ、なかなかそのような物件が無い、空き家はあるけど貸す物件が無い。農業の担い手確保と空き家は、もしかしたら結構密接に関係しているのではないかと思っている。そういう意味では、例えば、小布施町と須坂市、小布施町と高山村とか、市町村間の協力もできるのではないかと思っている。新規就農で転入してくる人は、新しい技術や作物に対しても貪欲で、もともとの農家の後を継いだ若者の方が新規就農の若者に比べモチベーションがあまり感じられないと個人的に思ってしまう。そういった若者の活躍の場を作ることも必要と感じた。

### 黒田座長

長野市においても2年かけて空き家の実態調査を実施している。これから各空き家の持ち主に対し意向を調査したいと思っている。今お話があったように、自分の町、自分の市だけではない課題だと考えている。

### 関谷 信州高山温泉郷観光協会会長

観光協会も今いろいろ変わっている。従来は観光業者だけの集まりであった。高山村ではワイナリーが新しくできたし、綿の栽培なども新しく始まっており、新規就農の方も増えている。そういう中で、ソルガムもそうであるが、最終的な方向性をしっかりと見据えて組織化していくこと、コーディネータの役割を担うこと、観光協会もそういう形に変わっていかなければいけないと最近感じている。そういった意味では、この懇談会の場はいろいろな方から情報がいただけるので、それを参考に、今後の組織づくりも少し違ったステップで進められたら、また違う形になると感じた。

ソルガムは高山村も積極的であり、製品化も大分されている。山田牧場辺りのレストランでもカレーの中に入れてたり、クッキーを焼いたりしており、実際に食べられるところがある。次のステップとして、どのように事業化していくのか考える段階に来ていると感じている。

## 赤松 長野森林組合森林づくり推進課長

私どもの課題としては、本日の資料3の2ページ、1番下にある圏域内の豊富なバイオマス資源の利活用であるが、報告にもあったように、あまり進んでいないというのが現状である。信濃町においても地方創生の先行型、あるいは加速型の交付金を利用し調査を重ねた結果、やはり需要が無いとビジネスとしては成立しないということで、これこそ正に広域の圏域で解決する課題ではないかと思っている。折しも11月9日パリ協定に日本政府としても批准した。安いから高いかで考えると、当然石油が安くなれば石油に流れる、これは民間では仕方がないが、残念ながら公共施設においても、昨年、消費量が半減するという状況に追い込まれているのが現状である。従って、この問題を解決するには、本日の資料4、あるいはスクラムビジョンの67ページの成果指標の中に、公共施設のエネルギーのバイオマス使用率、例えば30%達成など、そのような指標を加えなければ正直進まないと考えている。もちろん組合としても一生懸命取り組むが、連携によるお力添えをいただかないとこの課題は重い、そのように1年経って改めて感じている。是非お力添えをお願いしたい。

## 黒田座長

先程のソルガムの話にもあったように、川上だけでなく、川下も全てそろって組織化して進めていくことが必要ではないか。

地産地消という言葉をよく使うが、例えば学校給食など、地産地消の「地」は長野市に限らず、もっと広く捉えて良いのではないか。長野市の給食に飯綱町のきゅうりを使っても地産地消で良いのではないか。もっと広い連携中枢都市圏の視点が必要だと職員には伝えている。

## 花田 むらの研究所所長

このスクラムビジョンでは、皆様に多大な指導をいただき、小川村としても頑張っているところである。46事業のうち、18事業について連携させていただいている。進捗状況としては、13事業は進んでいる。5事業については、現在担当部署において会議を重ねて具体化しようと努力しているところである。観光、文化、移住に関わる取組がある中で、小川村にはロマンピアという天文の施設、天文台とプラネタリウムがある。この4月から利用された方は1,500名近くいる。小川村の人口の半分になる。アンケートを見ると、本日出席いただいている方の地域からもかなり利用されており、感謝申し上げる。この星のきれいな所に移住したい、あるいは観光で楽しみたいと思う方々には是非利用していただきたいと思っているので、皆様の地域でお勧めいただきたい。

## 黒田座長

観光については、窓口はあるので情報発信していただきたい。

## 古木 飯綱町観光協会理事

官と民の連携がどのようにできるかという点で、私は民間の社長だが、この資料を見ても良く分からないというか、(長野地域を)静岡地域と書いても群馬地域と書いても通用する資料ではないかと私の場合感じている。官庁的な考え方というのは、このように普遍的なもので共通言語を持っているのかと思っている。企業というのは個別的特徴を出して、競争の中で売り上げを上げていこうという考え方なので、そこのコラボレ

ーションを本当にしていくとすごい地域連携もできるのではないかと考える。同時に、「WELCOME TO ながの」というパンフレットを拝見し、私達飯綱町の魅力というのは他の自治体とあまり変わらないと感じた。もっと民間の視点に基づいた特徴を出して、広域の中での独特の役割を見出していくことも視点として必要である。観光協会としてもそのような発信をしていければいいと思っている。

#### 黒田座長

官と民はお互い目標は一緒だと思うので到達する手順を上手くする必要がある。

一通りご意見を頂戴し感謝申し上げます。今いただいたご意見を参考とさせていただき、生まれたばかりの都市圏なので、これからますます取組を充実させていきたいと考えている。スクラムビジョンという冊子は出来たので、これをどのように実現させていくかが重要である。この懇談会の委員の皆様方は、各界の代表の皆様である。まずはこの懇談会でスクラムを組んで長野地域のために取り組んでいきたいと思っているので、引き続き皆様方のご協力、ご理解、ご支援をお願いしたい。

以上で懇談会を終了とさせていただく。ご協力に感謝申し上げます。

以上

## 長野市連携中枢都市圏ビジョン懇談会 委員名簿

順不同、敬称略

区 分	所属機関・団体等	職 名	氏 名	備 考
産業	長野商工会議所	会頭	北村 正博	
	須坂商工会議所	会頭	神林 章	【代理】 専務理事 春原 博
	千曲商工会議所	会頭	滝沢 英雄	【代理】 事務局長 栗原 達
	坂城町商工会	会長	山崎 忠承	(欠 席)
	ながの農業協同組合	代表理事組合長	豊田 実	
	グリーン長野農業協同組合	代表理事組合長	神農 佳人	
	公益財団法人ながの観光コンベンションビューロー	専務理事	滝沢 信一	
大学・研究機関	国立大学法人信州大学	理事・副学長	中村 宗一郎	
金融機関	株式会社八十二銀行	法人部公務担当 部長	平林 岳久	
雇用	連合長野長野地域協議会	議長	和田 喜雅	
長野市	鬼無里地区住民自治協議会	相談役	山口 信雄	
須坂市	長野県須坂看護専門学校	校長	傳田 純子	
千曲市	千曲市次世代支援部地域活力創造課	課長	斎藤 清行	
坂城町	坂城町子育て支援センター	所長	平林 博子	
小布施町	小布施文化観光協会	会長	桜井 昌季	
高山村	信州高山温泉郷観光協会	会長	関谷 小一郎	
信濃町	長野森林組合森林づくり推進課	課長	赤松 玄人	
小川村	むらの研究所	所長	花田 隆夫	
飯綱町	一般社団法人飯綱町観光協会	会長	土倉 武幸	【代理】 理事 古木 惣一郎
	長野市	副市長	黒田 和彦	座 長
合計		20人		